

## 随想

### 名寄の昔、そして今のあれこれ

#### — 明治の偉人達を偲ぶ — その(1)

#### 元市長 池田幸太郎さんのこと

上川北部医師会会長 中村 稔

名寄市の前々市長は池田薬局の先代池田幸太郎先生である。先生は草創期名寄の薬店の2代目であり、旧制旭川中学（現旭川東高）、東京薬専（現薬科大）を卒業、旧内務省（現厚生省はその一部）に勤務され、家業継承のため名寄へウターンされた。薬局経営のかたわら旧名中の教師をされ、私も旧中1年の時“化学”の講義を受けたのである。なほ先生の奥様は土別の寺田医院の長女であり、私の祖父母も近所に住んでいて古くからおつきあいがあった。余話ながら、私の伯母は道北における花柳流の元締めで、現在の池田薬局の奥様はかつてその一門の名取の一人として活躍していた。

#### 閑話休題

昭和35年市立総合病院に赴任し、三品政朝病院長に伴われて池田市長にごあいさつに伺った時、“やあ、よく帰ってきてくれたね。”その後私の開業地が近所で、先生も患者（痛風）の一人だったので時々お話しを伺う機会があった。「中村さん、明治の名寄人の発想は素晴らしかったと思うよ。こんな田舎から私を東京薬専にやり、後輩の3人を旧制帝国大学にやったんだよ。道路が広いでしょ。駅前から四条まで、北は恵陵高校まで区画がきちっとしている、これはね、日清・日露戦争を体験した名寄の人が旭川の七師団（現二師団）に連隊の誘致をお願いするために造ったと聞いている。あの広い大通りに連隊員の集結場所を想定したものだそう。実現はしなかったけど。」

豪雪地帯であれば、広い道路によって現在の私

達がどれだけ大きな恩恵を受けているかと思う時、改めて明治の人の偉大さを垣間みる想いがするのである。

先生によれば、本来なら名寄の方が北見より早く市になると思っていたそうである。「名寄はね、木材、澱粉、亜麻、ハッカ、除虫菊（殺虫剤の原料）集産地だった。だから今のホテル藤花のあたり一帯は、桜木町と云われ、川が流れていて風情あふれる紅灯街で大変な賑いだったそう。色街に続いて北の方に寺町でしょ。“坊さん、かんざし買うをみた。じゃないけど古い都市では全国でみられる風景だね」藤花通りから北西に走る斜めの通りも昔の色街の名残りだそうである。又ある時「あなたは小学生の時、“ハッカは北見”と習ったでしょ。あれは間違いなんだ。中川町共和一帯にあった板谷農場（小樽の旧板谷財閥等）で産出される“ハッカ”の量は全道一、と云うことは全国一と云うことだ。

その集産地が名寄だった。北見なんか“ハッカ”位しかとれない、それに対して名寄では“ハッカ”なんて一部分にしか過ぎなかった。でもね、北見に遅れをとったのは後を引き継いだ私達の責任だと思っている。」因みに現在の麻生区は、帝国製麻名寄亜麻工場の跡地であり、“菊山”スキー場は除虫菊生産の名残りの一つである。

「大正時代から長岡さんの経営する朝鮮人参（現高麗）工場があって全国に出荷していた。現在の川瀬整骨院のあたりに大きな工場があり、主任技師の一人は今の市立病院通りで花屋さん（光富園）をしている三橋重夫さんだ。」

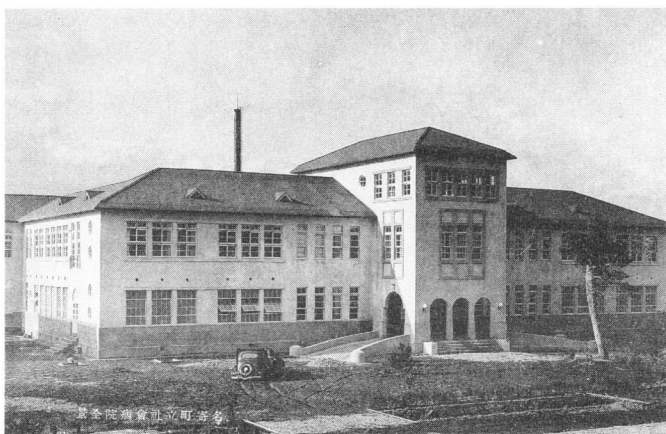
三橋さんは旧永山農業（現旭川農校）を卒業後、請われて人参工場に赴任したがやがて失明、花屋さんを開業した。全盲でありながら花を愛し、専門的知識を全国の障害者に情報発信して生きる勇気を与え、その真摯な姿はNHKテレビで全国に放映されたのである。その功により平成元年度名寄市文化奨励賞受賞の栄に浴している。三橋さんが所属する“盆栽友の会”の会長は私が努めている。

「私は薬剤師だ、私の夢はこの道北を“生薬の里”にしたかった。生薬に寒冷地が適しているからね。だから昔の人脈で国立薬草試験場を誘致した。只、生薬をメインとする薬科大学を造れなかったのは残念だった。市も短大発足をかかえて大変だったしね。」そして“生薬の里づくり”は名寄市財政に大きなツケを残して消滅したのである。今日、漢方の隆盛をみるにつけ、夢を果たせなかった先生の無念さを改めて想うのである。

「明治・大正時代の医師陣は旭川より充実して

いた。そこに昭和12年町立社会病院ができた。開業医もレベルが高かったので、宗谷や留萌、網走地方からも患者が集まった。旭川市立病院なんて隔離病舎だった。さすが赤十字病院は別格だった。」

現在、名寄と北見の落差の大きさをみる時、“病診連携システム”が先駆的に充実しつつあると自負する今、私達名寄に住む医師陣は“誰でも安心して住める街”ー地域活性化の最高のソフト面の一端を担う栄を得ていると思っている。その中核となるのは、かつて町立社会病院、今は市立総合病院であるのは論を俟たない。最近、病院財政赤字とか、経営診断とかが地元紙に報道されているが、私はむしろ、ここまで来たのなら、名寄が豊かに生き残るためにも、市立総合病院を更に充実させて道北の小医療都市を目差すべきではないか、その経済波及効果と相俟って、地域活性化のハード・ソフト両面で大きく貢献できると思うからである。



旧市立病院名寄町立社会病院全景